

佐久

2006 6 1

No.29

広報 SAKU Public Information

佐久市ホームページアドレス <http://www.city.saku.nagano.jp>

Photo うまく植えられたかな

浅科小学校では、今年も生徒が豊作を願って五郎兵衛米の田植えを行いました。

腰が痛くなってしまいましたが、秋の収穫が楽しみです。



Contents

全戸水洗化をめざして	②
経済効果 5億1千万円!	④
結核健診のお知らせ	⑦
公民館報	⑧～⑱
今月のトピックス	⑳㉑
情報インフォメーション	㉒～㉔



公民館報

P8～19



今月のトピックス

P20～21



「金閣寺を見る人」

2004年 130.3cm x 162.1cm カンヴァス・油彩

あいがまきよし
相笠昌義 昭和14年～(1939～) 東京都出身

“ボクは人間にしか興味がないし、それ以外のテーマはボクにとって無価値に等しい”

これは28歳の初個展に寄せた言葉であり、相笠昌義の全てを語る言葉である。当時相笠は散々な評価をされて絵が描けなくなったこともあり、「文明嫌悪症連作」という版画とコラージュによるモノクロームの作品を制作していた。だが相笠は「文明」は嫌悪しても「人間」を嫌悪しているわけではなかった。それは結婚を機に再び絵が描けるようになってからの「日常生活」シリーズにあらわれている。

この作品もそのシリーズの1つだが、独特の色彩に覆われた画面の中の時間と空間は完全に切り取られ、停止している。全員が金閣寺に注目し感動している訳ではなく、ただ通り過ぎる人、話し込んでいる人、それぞれである。国宝であろうが世界遺産であろうが、全ての人が同じように感動し行動するわけではない。その思わず失笑してしまう状況が恐らく「日常」なのだ。それを非難している訳ではなく、むしろそんな愛すべき人たちを彼の標本箱である画面の中に配置してゆく。じっと見ているとそれぞれの日常が感じられてくるようだ。

画面右下には相笠本人がこちらを向いて佇んでいる。彼は私たちのどんな「日常」を見つけてしまうのだろうか。

東京芸術大学美術学部油画科で山口薫・小磯良平らに学ぶ。1979年文化庁芸術家在外研修員としてスペインに滞在。20代から版画もてがけ日本版画協会に所属。現在多摩美術大学教授。

(文中の敬称は略させていただきます。)

この作品は、『～あたらしい作品との出会い～ 平成17年度 新収蔵品展(7月2日まで近代美術館で開催中)』に出品されています。

お問い合わせ 近代美術館 ☎67-1055

6月

コスモホール

(財)佐久市文化事業団
(☎82-3962)

芹洋子コンサート 日時 6月25日(日) 午後3時～
会場 コスモホール

入場料 3,500円
(全席自由)

「四季の歌」「愛の国から幸福へ」などのヒット曲でおなじみの芹洋子さんの透き通ったさわやかな歌声をお楽しみください。

チケット販売 / コスモホール・観光課・各支所経済建設課商工観光係・カム21・西友岩村田相生店

日・曜	会場	催し物	主催者・問合せ
11日(日)	大	アルベルトライブ	(財)民主音楽協会 ☎ 026-229-9100
25日(日)	大	芹洋子コンサート	(財)佐久市文化事業団 ☎ 82-3962

休館日は月曜日です

ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館となります。

佐久市文化事業団今後の予定

7月30日(日) こぐま座公演
「シルバニアファミリー & 3びきのこぶた」

8月26日(土) 三四六コンサート

9月18日(月) 工藤重典(フルート)&
野原みどり(ピアノ)コンサート

催し物の詳細につきましては、主催者までお問い合わせください。
大は大ホール、小は小ホール、全は全館です。

2006年6月1日発行(毎月2回 / 1日・15日発行)

発行 / 佐久市(〒385-8501 長野県佐久市中込3056) 編集 / 企画部広報聴課(TEL0267-62-2111 FAX0267-63-1680)
佐久市公民館(〒385-0051 長野県佐久市中込2947) 館報編集委員会 (TEL0267-64-0551 FAX0267-64-0553)